

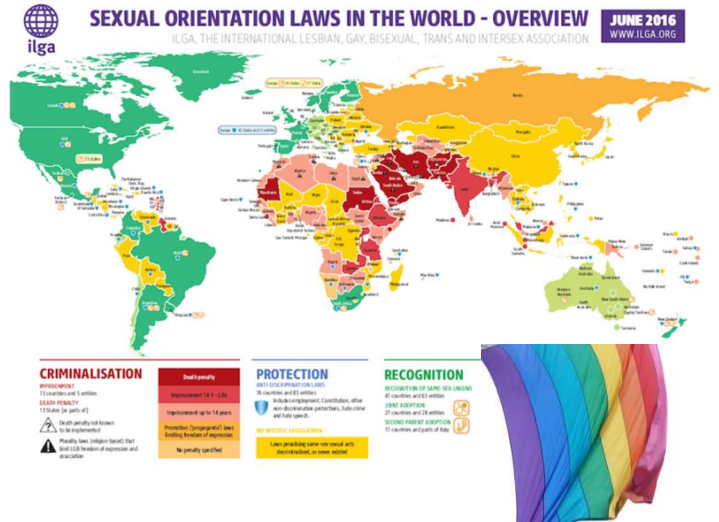
# 福音メッセージ 聖書が教える結婚とは

マルコの福音書 10 章 1～12節 【新改訳改訂第3版】

- 1 イエスは、そこを立って、ユダヤ地方とヨルダンの向こうに行かれた。すると、群衆がまたもみもとに集まって来たので、またいつものように彼らを教えられた。
- 2 すると、パリサイ人たちがみもとにやって来て、夫が妻を離別することは許されるかどうかと質問した。イエスをためそうとしたのである。
- 3 イエスは答えて言われた。「モーセはあなたがたに、何と命じていますか。」
- 4 彼らは言った。「モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。」
- 5 イエスは言われた。「モーセは、あなたがたの心がかたくななので、この命令をあなたがたに書いたのです。
- 6 しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。
- 7 それゆえ、人はその父と母を離れ、
- 8 ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。
- 9 こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」
- 10 家に戻った弟子たちが、この問題についてイエスに尋ねた。
- 11 そこで、イエスは彼らに言われた。「だれでも、妻を離別して別の女を妻にするなら、前の妻に対して姦淫を犯すのです。
- 12 妻も、夫を離別して別の男にとつぐなら、姦淫を犯しているのです。」

# 聖書が教える結婚とは マルコの福音書 10:1~12

1. 〈男〉〈女〉に二分できない時代に
  - (1) 5つの性
  - (2) 同性愛婚が先進国で合法化
  - (3) LGBT(女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、トランスジェンダー)



2. 離婚の広がり
  - (1) 「キリスト教国」で急増
    - ・ 女性の経済的自立が進む
    - ・ 聖書は「古い」
  - (2) 「非キリスト教国」の方が離婚は少ない
    - ・ 女性の地位の低さ(男尊女卑)
    - ・ 女性の経済的自立の困難

3. パリサイ人の畏
  - (1) ヘロデ・アンティパスの略奪婚(異母兄弟の妻)
  - (2) 再婚に反対したバプテスマのヨハネは斬首
  - (3) 「妻を簡単に離縁できる」=男の特権[パリサイ人も弟子たちも]
  - (4) 「離婚すべきてない」と言えば、ユダヤ人を敵に回し、命の危険が
  - (5) 「離婚は問題ない」と言えば、ヨハネの主張と矛盾

同性愛は美しい虹?

ヘロデヤに魅せられ、妻を離別し再婚したヘロデ王(映画より)

4. 結婚の本来のすがた
  - (1) 祝福
    - ・ 人類に罪が入る前に定められた Cf.結婚を罪悪視する禁欲主義
    - ・ 「生めよ、増えよ、地に満てよ」
  - (2) 「男と女に」 Cf.境界線が不明確になりつつある現代
    - ・ 警告:エイズ (今は不治の病ではなくなった)
  - (3) 「父と母を離れ」 Cf.儒教の教え「〇〇家と〇〇家の婚儀」
  - (4) 「その妻と結ばれ」 Heb.「くつついて離れない」
    - ・ 乱れた生活の高い代償(梅毒、再流行のきざし)
    - ・ 不倫の高い代償(社会的制裁)
  - (5) 「ふたりは一体となる」 神聖なる結合
    - ・ ヘブル語で「知る」とは「人は、その妻エバを知った」(創世記 4:1)
  - (6) 「神が結び合わされたものを、人が引き離してはなりません」
    - ・ 「死がふたりを分かちまで」



5. 神の変わらない基準
  - (1) どの時代にも、どの文化でも
  - (2) 離婚して再婚=姦淫(一種の一夫多妻)
  - (3) 守れない弱さ:波多野鶴吉(グンゼ創業者)
  - (4) 壊れる寸前の家庭がよみがえった奇跡(尼川さん)
  - (5) 愛し合う夫婦:神とイスラエル(教会)の関係
  - (6) 「愛」(ヘセド)契約にもとづく愛

善い人が良い糸を作る

社会に貢献する事業を起こした波多野鶴吉

**エゼキヤ 31:3** 主は遠くから私に現れた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛(ヘセド)を尽くし続けた。」

プロのカメラマンから伝道者へ(尼川匡史さん)  
 [尼川元気君のお父さん]

